



平成29年度 北海道八雲養護学校学校評議員会だより



平成29年度北海道八雲養護学校第1回学校評議員会を7月3日（月）に本校校長室において開催しました。

第1回評議員会では、校長挨拶、辞令交付のあと、校長から「今年度の学校概要及び経営について」の説明、その後、教頭から今年度の学習活動の概要について「地域と連携した本校のセンター的機能について」等の説明を行いました。

その後、意見交換として、評議員の方々から、今後の学校経営等についてのご意見をいただきました。

【平成29年度北海道八雲養護学校 学校評議員】

※敬称略

所 属 等	氏 名	備 考
独立行政法人国立病院機構八雲病院 理学療法室長	三 浦 利 彦	継続
北海道八雲養護学校卒業生	石 前 翔 平	継続
北海道八雲養護学校後援会長	大久保 健 一	継続
八雲町教育委員会学校教育課参事	本 庄 伯 幸	継続
八雲町役場住民生活課 課長補佐	菅 原 真紀子	新規

※本庄評議員欠席

学校からの説明の概要

<校長から>

- 学校経営方針について
 - ・昨年度の学校評価の結果、学習指導要領改訂の背景とポイント、昨年末の学校評議員会でいただいたご意見を基に、現在の教育活動の状況と課題を踏まえた内容を主な設定根拠としている。
 - ・今年度の学校経営方針設定のキーワードは、「学び」「創造」「協働」とした。
- 取組について
 - ・子どもたちに求めることは、大人にも求められることを念頭において具体的な取組を進めている。
 - ・教職員の専門性を高めることを主な目的とし校内研修に重点をおいて取組を進めている。（初任段階教員を対象に校内職員を講師として個別に行う「おひとりさま研修」「ミニ抄読会」「町内学校（授業）見学」など）
 - ・研修の結果から日常的なOJTや協働へのベースにつながることを期待したい。

<教頭から>

- 本校教職員の状況について
 - ・年齢構成は比較的バランスがよいが、教職及び病弱教育経験年数が浅い教員が多い状況である。
- 授業改善・指導力向上に向けた取組
 - ・授業改善を目的に、専門性の向上を図る校内研究や校内研修の工夫を行っている。

各評議員からの意見

【教員研修について】

- ・経験年数の浅い先生が多いので、このような研修を通して専門性の向上を図ってもらいたい。「ミニ抄読会」の取組も先生方の読書につながる取組だと思うので、今後も継続して実施していただきたい。
- ・「おひとりさま研修」は大人で行う研修よりも自分が疑問に思っていることを聞きやすいので経験の浅い先生にはよい研修だと思うので継続して取り組んでもらいたい。

【読書活動の充実について】

- ・読書する機会が大人も子どもも減ってきているので、子どもたちだけに限らず、読書をする習慣を身に付けさせ、子どもたちには今後、文献などを読んでまとめる力につなげてもらいたい。

【八雲町との連携について】

- ・養護学校の教育方針と八雲町の街づくりの視点に同じ部分があると感じた。養護学校は小学部から高等部までの指導が連続的な学びとなることを方針としているが、町としても、小学校から高等学校までの連続した支援を行っていく必要があると考えている。学校と町が意見交換をするなどして、継続した支援を行ってほしい。

【職員構成について】

- ・年齢構成は20代と30代の先生、40代と50代の先生の比率は50%ずつの割合となっているが、経験年数を見ると経験の浅い教員が多くなっている。特別支援学校は、他の学校種に比べると、それぞれの障がい種に関する専門性が必要になることから、人事面で考慮されることを願いたい。

<校長から>

- ・八雲町との連携については、教育の質の向上のためにも、互いの実践や実績の交流をし、よりよい連携を行っていききたい。また、教科指導など本校が地域の学校から学ばなければならないものがあるで、情報を共有し取り組んでいきたい。
- ・学年が上がるにつれて読書をする時間が減少していることが全国的にも報告されている。本を選び活用する力や読みとりまとめる力を育むためにも、今後も、読書活動の充実を図る取組を工夫していききたい。
- ・教職員の専門性の向上に向け校内研修の充実を図っていくことが重要である。特に本校は経験年数の浅い教員が多いことから、「おひとりさま研修」など教員一人一人のニーズに応じた取組を継続して行っていききたい。